

足羽山歴史ゾーン（愛宕坂一帯）の整備に関する要望

平成 7 年 2 月

福井市は、北国第一の要衝「越の国」の中枢地として、古代より栄え、幾多の歴史的人物が往来してきた我国有数の歴史的要地でありました。

特に幕末の激動期には、福井から多くの偉人・英傑を輩出し、その後の日本の発展の礎となって、歴史の上に大きな足跡を残しております。

しかしその後、第二次大戦末期の福井大空襲と、終戦直後の福井大震災により大きな被害を被り、そのため福井の中心街にはかつての城下町をしのぼせる歴史的文化遺産や、郷土の偉人達の史跡は残念ながらほとんど現存しておらず、全国的に誇るべき歴史と文化を有しながら、市民が郷土の歴史に気軽にふれる施設も貧弱といわざるをえないのが現状であります。

しかしながら、市内にのこる貴重な歴史的遺産として、市民の長い間の要望であった養浩館庭園の整備復元が市当局のご努力により昨年完了。また、長く足羽山にあって貴重な郷土資料を蔵しながら、施設的にあまり恵まれていない郷土歴史館を隣接地に移転拡充整備する計画も具体化に向けて動きつつあります。加えて、昨年 1 1 月幕末の歴史的つながりがきっかけとなって実現した熊本市との姉妹提携実現は、郷土の歴史・文化見直しと再評価への具体的動きとして大変心強くまた、市民の間でも大きな関心事となってきております。

このような中、足羽山の愛宕坂にあって料亭として県内有数の格式をもち、開業以来約 3 9 0 年余りの歴史を有してきた「五嶽楼」が後継者難のため、営業を続けることが困難となり、昨年 1 月より、閉鎖に至っております。

「五嶽楼」近辺は、幕末の国学者、清貧の歌人として有名な橘 曙覧が陰棲した黄金舎があった場所として知られ、愛宕坂一帯は幕末の偉人達をしのぶ雰囲気を中心市街地では珍しく残されており、坂の頂上にある郷土歴史館とともに、市内の数少ない郷土の歴史にふれられる場所となっておりますが、このまま放置すれば、郷土にとって残された数少ない貴重な歴史的遺産を失いかねない状況にあることを憂慮するものであります。

福井市当局におきましては、郷土の歴史・文化の見直しと保存につきましても、福井市の街づくりと関連してさきほど述べました通り、これまで以上になみなみならぬ決意で推進されると確信致しております。

この「五嶽楼」の問題を、郷土の歴史的遺産を保存、継承し、これを中核として、移転後の郷土歴史館跡地を含めた一帯を、歴史文化ゾーンとして活用する絶好の機会としてとらえ、子孫に誇るに足る整備を行うべき時と考えます。

今、この時を逸しては、郷土の偉人達の足跡を直接感知しうる由緒ある場所に、市民が憩える理想の施設の整備を行うことは不可能といわざるをえません。

このような観点に深いご理解を賜り、福井市の歴史文化の保存と街づくりのための地域整備、そしてそれを基盤にした福井市の発展を図るため、市当局の特段のご高配を賜りたく、次の事項について要望いたします。

記

1. 「五嶽楼」を「橘 曙覧館」として、整備・保存すること。
2. 愛宕坂一帯を郷土の偉人達をしのぶための地域として活用するための諸整備を行うと同時に、郷土歴史館の移転跡地の整備を行い「橘 曙覧館」との有機的連携を持つ施設（「郷土偉人館」または「郷土明治維新館」等）とすること。
3. 福井市郷土歴史館を早期に養浩館庭園隣接地へ移転し、その機能拡充を図るとともに、養浩館庭園へのアクセス道路及び駐車場の整備を図ること。